

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口 行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会結成から12年

節分を機に厄を祓い気持ちを改め今年こそは良い年であることを切に願いたい。しかしながらこの冬一番の寒波による豪雪は各地に大きな被害をもたらした。

昨年3月11日に発生した東日本大震災と津波による大災害そして福島原発事故。世界的な異常気象は各国にも大きな被害をもたらした。また、首都圏の直下型地震の発生は今後4年以内に発生する可能性が70%と言われ、日本は災害等で大変困難な時期を迎えることになると思われる。私自身も昨年は大変つらい年であった。仙台市の知人を訪ね津波の後の町の景色は「一瞬時が止まった」という感じがした。海岸沿いの樹林のすべてが地面に横倒しになり、船の残骸が岸に打ち上げられている異様な光景は今まで経験したことの無い悲惨な状況であった。17年前に経験した阪神淡路大震災の時にも同様に大変つらい思いをしたことを覚えている。

当時、大阪の郷土史家で大学教授の故伊勢戸佐一郎先生は阪神淡路大震災が起きる数年前から「大阪にも地震は来る。大阪湾からの津波は甚大な被害があったと歴史が語っている。」と警告をしていた。日本列島は100～200年周期で大きな地震が起こることは歴史を学んでいる人達はよく知っていた。しかし、人は100年も過ぎると忘れ、覚えている人が少なくなる。これは大変残念なことで100年前のことを忘れず語り伝えていく必要があると強く感じる。歴史を学ぶことの重要性がある。今年は古事記編纂

1300年に当たる。日本最古の歴史書『古事記』で古代の歴史を勉強する良い機会です。是非一読したいと思う。

さて、昨年は一の宮巡拝会結成12周年という節目の年であり、念願の『橘三喜』の単行本を出版。出版記念会を準備していたところ東日本大震災が起こった。毎年開催するブロック交流会を中止して、ようやく全国交流会を昨年10月に開催することになった。但馬国一の宮出石神社、同じく一の宮粟鹿神社、播磨国一の宮伊和神社を参拝した。出石神社の祭神天日槍命は新羅国



但馬国一の宮 粟鹿神社 勅使門にて 平成23年10月30日 本多氏撮影

の王子で、当時泥海であった但馬を開拓し豊沃な土地に変えた神として祀られている。粟鹿神社は山陽道の宿場町として栄えた山東町にあり古墳時代の遺跡も多い。大己貴神 別名 大国主神を祀る伊和神社の創祀は『播磨国風土記』では伊和大神(大己貴神)とよばれ、国造りの活躍が描かれている。本殿背後には「鶴石」が祀られていて白鶴が舞い降りた伝説がある。これら3社

を参拝する全国交流会の参加者は例年の半数であった。震災、津波、原発事故、円高、長引くデフレなど日本は経済的に大きな打撃を受けた。一の宮巡拝会結成当時と同じように暗く閉塞感が充満している今日である。当時はそれを打破するために巡拝会は結成された。昨年のなでしこジャパンがFIFA女子ワールドカップで優勝したように今年こそは明るいニュースを多く望みたい。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp

一の宮巡拝会全国交流会報告

高寺 壽



出石神社

昨年の3月11日、千年に一度という大地震・大津波が東北地方東日本を襲いました。その未曾有の被災のため、3月20日～21日の関東ブロック交流会および5月末の全国交流会（諏訪大社巡拝）は中止いたしました。ようやく復興の足音が高くなってきた10月の下旬（29日～30日）に延期しておりました全国交流会を近畿ブロック主催で、但馬国・播磨国一の宮巡拝を実施することができました。関東地方～関西地方の28名の参加がありました。皆様の崇高なるご協力ありがとうございました。被災された皆様には、お見舞いとお悔やみを謹んで申し上げますと共に、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

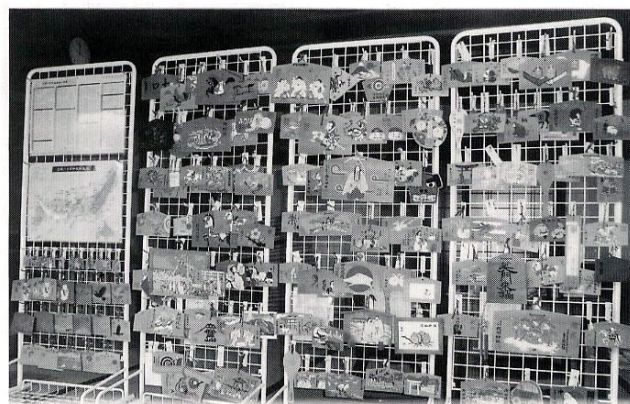
第一日目（10月29日）：晴天の中、秋の観光シーズンで混雑しているJR京都駅を午前9時30分に出発して兵庫県豊岡市出石町を目指す。車中では、関口代表から挨拶と東北の震災地の訪問報告と生谷顧問から一の宮の説明がありました。バスは京都縦貫道・日本三景の天橋立を車窓に見て、午後1時前に城下町出石に到着。出石では名物の皿蕎麦と自由散策の後、午後2時、但馬一の宮出石神社にて正式参拝を行いました。御祭神は天日槍命で、当社は渡来神を祀る唯一の一の宮です。参拝後、自然の古木が繁茂する境内を散策。約300坪の禁足地があります。次に播磨焼の店に立ち寄り見学・買物後、コウノトリの郷公園を見学する。今夜の宿は豊岡市日高町の神鍋高原のブルーリッジホテルで、総会と懇親会が行われた。

第二日目（10月30日）：前日とは打って変わり、小雨模様の中を希望者のみで、午前7時30分から神鍋山の火口跡を散策。午前9時30分にホテルを出発。国道9号線を南下し、兵庫県朝来市にあるもう一つの但馬一の宮粟鹿神社へ向かう。一時間後、杉や檜の社叢に囲まれた粟鹿神社に到着。歴史を感じさせる拝殿に上がり、正式参拝。参拝後、境内社や左甚五郎作と云われる鳳凰の彫刻がある勅使門などを見学する。昼前に次の目的地、播磨一の宮伊和神社を目指してさらに南下する。昼食は車中で豪華幕の内弁当を楽しみました。バスは播但自動車道・中国自動車道を経由して、午後1時30分に宍粟市にある播磨一の宮伊和神社に到着。珍しい北向きの社殿で、正式参拝。参拝後のお話では、播磨の国は毛利氏や豊臣氏と縁が深かったため、江戸時代は徳川幕府の施策のため不遇を託ったそうです。午後2時半過ぎ、伊和神社を出発し姫路経由で帰路に就く。途中、姫路城西御屋敷跡の好古園を散策。バスは姫路駅、新大阪駅を経由し最終京都駅で午後7時半に解散となりました。

伊和神社の説明をされる宮司様→



←素晴らしい祝詞を奉上げて下さった粟鹿神社の宮司様



当会の大先輩 木下雅晴氏が粟鹿神社へ奉納された全国一の宮神社の絵馬が壮観です。



池田氏(中央)による懇親会恒例・木遣りの締め



コウノトリ



出石皿蕎麦店軒

千度祓え

岸本 鐵夫

平成23年3月11日、未曾有の大震災が東日本に発生し、その後の福島原子力発電所の事故をも引き起こし、二重の困難に戸惑うばかりの日々が現在も続いております。又、長野北部地震、静岡県東部地震などの余震と、度重なる台風による風水害など大自然の力に驚愕し、人間の無力さを痛切に感じる1年になりました。

会員の皆様におかれましても、被災された方がたくさんいらっしゃると思存します。心よりお見舞い申し上げます。

古来より神様のお力は和魂と荒魂と二つに大別され、初めに荒魂として現れた御神威を人々は鎮め、荒魂を和魂に変えるために、神に供物を捧げ、儀式や祭を行ってきました。自然の猛威の前には人間は無力であり、そこに畏敬の念をもって神として崇め尊び、そのお力に対し謙虚に生きてきたのが日本民族なのです。そして数千年以前よりこの自然との共生による生き方のDNAが日本民族には織り込まれていると各神職の方々の言葉が多くございます。

罹災した小学生の少年が復興の誓いの中で「我天を恨まず。前に進み…」との言葉を聞き、この自然の摂理を受け止め生きていくとの決意の強さに深い感銘と希望を覚えました。

昨年12月には春日大社の春日若宮おん祭りを拝見し、帰路河内国一宮枚岡神社に参拝し、偶然にも宮司中東弘先生にお会いでき、社務所内にてお話を聞くことができました。宮司にはこの国難ともいえる災害においても日本人の魂は失われてないと述べられ、大きな岐路に立つ今こそ神仏を尊び祖先の困難を乗り越えてきた知恵を集結し、復興していかねば明日の日本は無いとの言葉を頂きました。

震災後、春日大社では3月16日より神職と参拝者が連日、国家安泰を祈願する中臣祓を唱え、4月23日には早々に参加した参拝者の人数で唱えた回数を合計すると1万回となる「万度祓」の満願を迎えたと新聞記事で知りました。

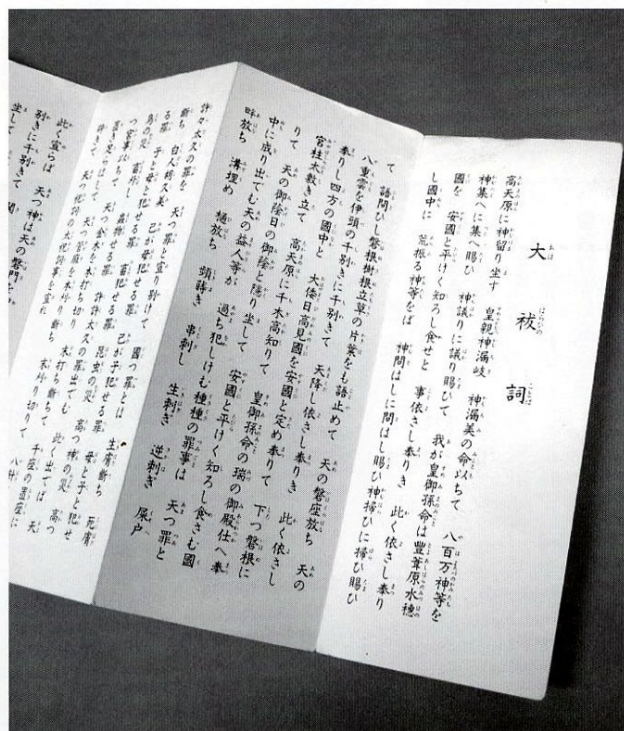
又、地元の氏神様三田春日神社においても月並祭にて東日本大震災復興祈願の祝詞を奏上してお

り、毎年お田植え祭の神事を共に催行している福島県石川郡の菅布禰(すがふね)神社に義援金等をお贈りし、後方支援を氏子全員にて継続しております。改めて日本人の信仰心や絆の強さについて考えさせられました。

私も何か災害に遭われた方々に出来ることは何かと考え、地域での義援金募金活動、支援物品の発送の活動に奉仕しております。

個人的には各神社参拝の折り、社頭の前にて中臣祓と東日本大震災復興祈願の祝詞を奏上し、私的千度祓えを実行中です。中臣祓えは既に多くの会員の皆様にはご承知とは存じますが、東日本大震災鎮静、復興祈願祝詞は各神社で奏上されておりますが、私は三田春日神社にて奏上している祝詞を用いております。

途中何度も思いが湧き上がり言葉に詰まる事が度々です。私的千度祓が達成される時に国難を乗り切った喜びが多くの人々にあることを確信し、巡拝を続けることを年頭の誓いといたします。



一の宮巡拝・偉大な先駆者

信念の神道家『橘三喜』を再認識しましょう!!

橘三喜と一の宮めぐり
ブーム到来!



全国一の宮調元組
信念の神道家
橘三喜
郡 順史

一の宮巡拝会編

待望の書、発刊

諸国六十ヶ国をめぐり、日本人として最初にくまなく参詣し、その感動を『巡詣記』として遺したのが、橘三喜である。

橘三喜は、寛永十二年(一六三五)、肥前国(現長崎県)の平戸の平戸七郎宮の宮司の息子として生まれた。

そして延宝三年(一七二五)四十歳の折、全国一の宮巡拝の志を立て平戸を出立し、二十三年間をかけて巡拝の志を完結した。

定価 2,500円(税込) 上製本B5版288頁(送料別)
◎送料 1冊…500円 2冊…800円 3冊以上…1,000円
※編者一冊地域は送料が異なります。

讚辞
小さな巡礼の門運動がしだいにセンセーションを描いて大きな門運動へとつながり、日本人の心か柔軟な信仰心が育まれたのはなにかと思ふのです。
宗教学者 山折哲雄

情報不足の時代に、徒歩で巡拝を行なった本意の原典は、江戸時代の橘三喜が単に一の宮のみを参拝したのではなく、その一の宮の周辺の寺院や由緒ある道路、名所も賞讃に見物し、参拝していることに驚きます。橘氏の気遣いとその熱心とを感服しました。
全国宮司会 会長
皇學館大学 真田田中社 宮司 飯田清春

江戸時代の巡拝が如何に艱難辛苦の連続で在ったか、橘三喜の執念と強い信仰で歩んだ感性からの巡拝の源流を伝えてくれる。第二章の「寸鉄余瀝」を付した原文談話訳は貴重な資料になると思ふ。
橘三喜編集委員長 塩原輝昭

郡 順史著『橘三喜』を推薦する。

皇學館大学教授 井後 政晏

橘三喜といえれば私には一つの思い出がある。それは私がお手伝いをした「知立神社展(知立市歴史民俗資料館)に展示した砥鹿神社御所蔵の「橘三喜奉納中臣祓」のことである。これは縦一八糶、全長三五糶の小さな木版刷の中臣祓で、その奥に三喜自筆の奉納文が書かれていた。その文面は「一宮一宮巡詣の時、三河国宝飯郡一宮村に到る。粗而此一巻を砥鹿大明神広前に奉納す。仰ぎて大道の興隆を祈るもの也。」とあり、その後「元禄十年丁丑九月六日」と「宗源神道五十六伝偽証菴三喜(花押)」の文字が墨痕鮮やかに記されていた。これは『一宮巡詣記』に見える三河国の一宮に三喜が参ったことを確実に裏づけるものである。阿波国の一宮大麻彦神社に同じものが伝存するという。橘三喜は神道・倭学を学んで、諸国の一の宮を熱心に精査し、当時の交通困難な中、二十三年を費やして巡拝した熱意ある人物であった。今回、小説家郡順史氏が三喜の人物を活写した感動的な傑作を書かれ、併せて参考資料として『一宮巡詣記』を収録した御著書が刊行されたことは、研究上も大変有益なもので、広く活用されることをお勧めしたい。

寄稿 橘三喜を読んで 杉田 賢一

郡 順史先生は尊王恋闕の作家である。最新作は信念の神道家『橘三喜』を贈呈いただき読み終えた。

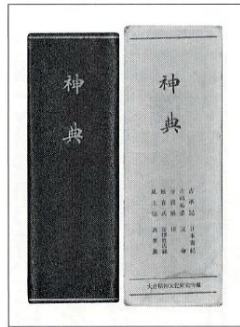
橘三喜は寛永十二年(1635年)～元禄十六年(1703年)の人で江戸時代前期の神道家である。故郷、平戸藩の壱岐島天手長男神社が元寇以来、所在地すら分らなくなっていたのを克明に探索、発掘調査し場所定めを行い神社建立までこぎつけられた。以後、諸国の一の宮を巡って神社の由来や最新決定などに大いに活躍された。三喜の研究成果や教えは橘神道として世に広まったという。書の前半は幼くして学問の姿勢定まり、神道の神髓を身につけるまでの様子や師弟教育、衆人への神道宣布の様子、舞の確立などの業績が物語風に記載され実に読み易くなっている。壱岐での天手長男神社建立までの苦難と御宝鏡発見の感動、伝説の誤りを正す凛とした学者魂など面白く読ませて戴いた。神社造営に反対し刺客として対峙する青年に理を持ってこれを糾し、毅然たる態度をもって納得させる場面など、橘の学問に対する「信」の強さを余りなく表現されており躍々として胸に迫るものがあります。書の後半は芭蕉に先立ち全国行脚。神道による国の堅めに全力を尽くした人生の旅日記風に表現。芭蕉に付き従った曾良が橘の弟子であったとは驚きでした。諸国一の宮の踏破と縁起、祭神、造りの記載。江戸時代仏教に染まる以前、日本の神々の定立を目指した方がいたとは実にありがたきことであります。郡先生の武士道作品はわたしも大ファンですが久しぶりに新作を読ませていただき大いに堪能できました。

(草莽通信 第38号抜粋)

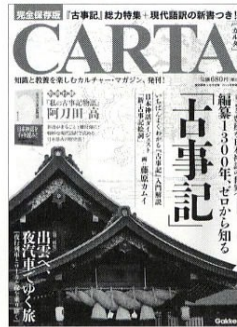
祝・古事記編纂一三〇〇年

本年は古事記が太安万侶によって撰上されてから1300年の記念の年にあたる。もともとは天武天皇の命で稗田阿礼が神代からの古伝史を誦習して編纂にたずさわり、その原点をもとに太安万侶が撰録して、元明天皇の治政下、和銅5年(712)正月28日に天皇に献上された。この尊い日本最古の歴史書といわれる古伝が誤って伝えられることなく編纂された古事記を、あらためて私たちは過去に学ぶ記念すべき年ではないでしょうか。

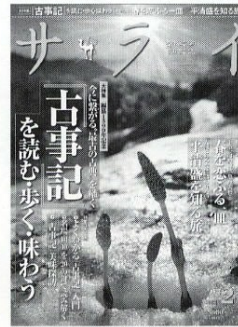
各出版社が古事記編纂1300年を記念してか多くの書物が増刊や発刊されたりしています。その一部をご紹介しますので参考にしてください。



神典



学研・カルタ



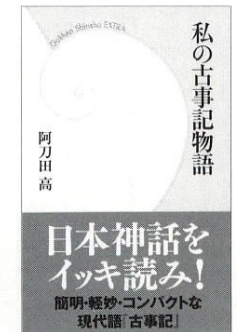
小学館・サライ



洋泉社・ムック



平凡社



カルタ・付録



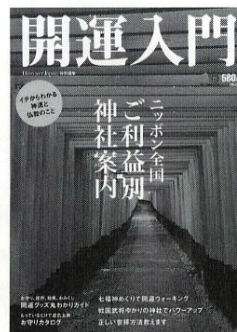
宝島社



人物往来社



日経BP社・OFF



えい出版



東京美術社



東京美術社



講談社・上巻



講談社・中巻



講談社・下巻



青春出版社

告知 平成二十四年度行事

一の宮巡拝会関東ブロック交流会

立春の候、平素は一の宮巡拝会の各行事にご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

扱、本年の関東ブロック交流会は、昨年東日本大震災で中止を余儀なくされた下野国・二荒山神社(日光・宇都宮)両社を左記の要領で巡拝する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

尚本年は東日本大震災復興祈願を祈り、皆様と共に大祝詞を唱和したいと考えております。

交流会は親睦を深める場です。お誘い合わせの上、ご参加賜りますようお願い申し上げます。

- 目的地 下野国一の宮・日光二荒山神社、滝尾神社、宇都宮二荒山神社
- 日程 平成二十四年三月十七日(土) 日帰り
- 目的 ①一の宮巡拝(正式参拝) ②東日本大震災復興祈願 ③大祝詞奏上
- 参加費 一万二千元(交通費バス利用・玉串料・昼食・飲み物・大祝詞資料代含む)
- 集合 JR東京駅丸の内北口 午前九時二十分
- 申込み 三月八日(木) 東京事務局まで

巡拝会全国交流会

本年は古事記編纂一三〇〇年の記念すべき年を迎えました。巡拝会も神話の原点とも云うべき、天孫降臨の地九州・高千穂から日向の旅を計画中でございます。詳細につきましては、原案が出来次第ご案内申し上げます。

実施予定日(二日間コース・三日間コース)

- ①平成二十四年五月二十六日(土)～二十七日(日)
- ②平成二十四年五月二十六日(土)～二十八日(月)

近畿ブロック交流会(場所未定)

実施予定日 平成二十四年十月二十一日(日)

古事記編纂一三〇〇年

「古事記」ゆかりの地を訪ねる旅

実施日 平成二十四年五月十三日(日)

コース 京都八条口午前八時集合～大安万侶の墓・参拝(大願寺参詣と薬膳懐石料理の(昼食))～大神神社正式参拝～御神体山三輪山登拝～賣太神社参拝～京都八条口午後七時半解散予定。

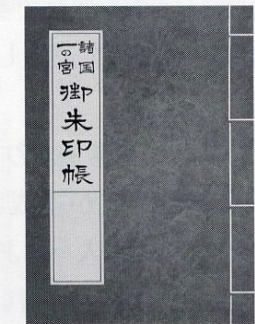
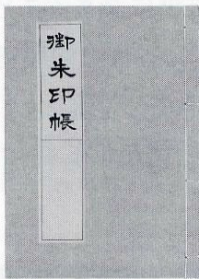
参加費 一三、五〇〇円

今年、古事記編纂一三〇〇年。神と人と人の起源から、第三十三代推古天皇までの国家の歴史を語る「古事記」は、天武天皇に命じられて稗田阿礼が誦習した未完の本を、元明天皇の勅命を受けた太安万侶が整理、筆録し、和銅五年(七二二)に献上した我が国最古の歴史書です。「古事記」は、上、中、下の三巻からなりますが、そのうち「上つ巻」で語られているのが神話の世界です。千有余年にわたり「古事記」は日本文化の源泉として、私たちが幼いころに親しんだ日本の童話やおとぎ話、童謡の源は「古事記」の神話に始まるものが多くあります。バスの車中では、楽しく古事記を学びながらゆかりの地を訪ねましょう。

■お申し込みは：南尋公まで 電話 〇七七-五二五-一三〇九〇 FAX 〇七七-五二五-一三〇九六

ご購入希望者は東京事務局まで

全てB5版 軽量で携帯に便利、墨書きに優れ、好評の和紙御朱印帳です。



- ◆斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)一の宮神社名・ご祭神名入り 定価一万五千元(送料別) 残部僅少
- 四国和紙・楮笹ヶ峰一の宮神社名・ご祭神名入り 定価七千元(送料別)

▲四国和紙・楮笹ヶ峰 本文全て白紙版 定価六千元(送料別)

「全国一の宮会」編 公式ガイドブック 全国一の宮めぐり

一の宮神社の神職で構成されている「全国一の宮会」事務局(大和国一の宮大神神社内)で平成二十年十二月に発行された公式ガイドブックも、現在は第四版となっており一部修正されている部分もあります。当会の「一の宮巡拝のすすめ」最新版と合わせ活用して頂けたら幸いです。

尚、公式ガイドブックは一の宮神社と巡拝会東京事務局のみで頒布しており、一般の書店では購入することが出来ません。全国一の宮神社の社頭でお求めください。神社にない場合は左記東京事務局へお問合せ下さい。



頒布価 一、〇〇〇円(送料別) 問合せ先 一の宮巡拝会東京事務局 〒一〇一-〇〇五五 東京都台東区三筋二十二十二 (株)アドワーク内 電話 〇三五八-三三三九〇-一 FAX 〇三三八六五-二二三五

平成二十四年度 会費納入のお願い

巡拝会の年度は、ご入会された月日ではありません。毎年一月が更新月となっております。本年度の更新が未だの方は左記のお振込み先から郵便振替にて更新して頂きたくお願い申し上げます。

会報その他刊行物等、会運営の原費となりますのでご協力ください。

- 一の宮巡拝会本部事務局 創房閑宮(有内) 〒六六六-〇〇二二 兵庫県川西市大和東二一三三三 電話 〇七七-七九一五二五八 FAX 〇七七-七九一五二五九
- 一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内 〒二一〇-〇五五 東京都台東区三筋一十二二十二 電話 〇三五八-三三三九〇-一 FAX 〇三三八六五-二二三五

- 入会金及び会費について 一般維持会員 年会費 三、〇〇〇円 賛助会費 一口三、〇〇〇円(何口でも可、随意) 寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈
- 会費等お振込み先 郵便振替(大阪) 〇〇九九-〇一五八-二五五